

6-1 everつき関係詞のカラクリ

—— 複合関係詞

1 「複合関係詞」とは？

whoやwhom, whatなどの後ろにeverがついた関係詞があり、これらを「複合関係詞」と呼んでいます。一見、名前はものものしいですが、読んで字のごとくです。「複合関係代名詞」だけではなく、「複合関係副詞」、それに「複合関係形容詞」もありますが、これらの使い方をマスターすれば、読み書きだけでなく、会話にも広がりをもたせることができるはずです。

まずは、複合関係詞に共通する特徴を押さえておきましょう。

《 複合関係詞（複合関係代名詞・副詞・形容詞すべて）の特徴 》
先行詞を含んでいる

複合関係詞はすべて先行詞を含んでいます。つまり、everつき関係詞は、前の名詞の意味を修飾することではなく、**節全体が独立して名詞節、もしくは副詞節として働く**ことが最大の特徴です。

・「列に並んだ人は誰でもこの商品がもらえます」

Anyone whoever gets in line can get this item. (×)

→ **Anyone who** gets in line can get this item. (○)

→ **Whoever** gets in line can get this item. (○)

要するに anyone whoever という形はなく、

① anyone を用いるなら who が必要

② whoever を用いるなら anyone は必要なし

ということです。

2 複合関係代名詞の節は、名詞節か副詞節

複合関係代名詞は、関係代名詞 who / whom / which / what に ever のついたもの4つです。(なお、thatever という英語はありません)

《 複合関係代名詞の共通原則 》

(1) 節全体は、①名詞節か、②副詞節のいずれかとして働く

(2) 後続は名詞欠落文

名詞節と副詞節はそれぞれ以下のように言い換えることができます。

◆ whoever + 名詞欠落文 (Sなし)

① 名詞節: anyone who V 「Vする人は誰でも」

② 副詞節: no matter who V 「誰がVしようと」

◆ whomever + 名詞欠落文 (Oなし)

① 名詞節: anyone whom SV ● 「SがVする人は誰でも」

② 副詞節: no matter whom SV ● 「誰をSがVしようとも」

◆ whatever + 名詞欠落文 (Sなし or Oなし)

① 名詞節: anything that ● V 「Vするものは何でも」

anything that SV ● 「SがVするものは何でも」

② 副詞節: no matter what ● V 「何がVしても」

no matter what SV ● 「何をSがVしても」

◆ whichever + 名詞欠落文 (Sなし or Oなし)

① 名詞節: either that ● V 「Vするものどれでも」

either that SV ● 「SがVするものどれでも」

② 副詞節: no matter which ● V 「どれがVしても」

no matter which SV ● 「どれをSがVしても」

上の表でおわかりのように、これら複合関係代名詞は副詞節に用いられると「誰が/を・何が/を・どれが/を...しようと」(⇒ いずれにせよ結果は同じ)という譲歩的な意味となり、これもよく使われる用法です。この用法の場合、**no matter** を用いて言い換えることもでき、口語ではむしろ、その方が好まれる傾向にあります。

以下、それぞれの例文と言い換え例をあげましょう。

◆ whoever の例

① You can invite [whoever ● wants to come] to the party.

☞ 名詞節

⇔ You can invite anyone [who ● wants to come] to the party.

「来たい人は誰でもパーティに招待していいよ」

② Whoever ● may say so, I'll believe in him.

≡ No matter who ● may say so, I'll believe in him. 副詞節

「誰がそんなこと言っているのか知らないが、私は彼を信じます」

◆ whomever の例

① You can invite [whomever you like ●] to the party. 名詞節

≡ You can invite anyone [(whom) you like ●] to the party.

「君が好きな人は誰でもパーティに招待してよい」

② Whomever you may ask ●, you won't be able to get a satisfactory answer. 副詞節

≡ No matter whom you may ask ●, you won't be able to get a satisfactory answer.

「誰に聞いたところで、満足のいく答えは得られないだろう」

whomever も whom 同様、口語では使われることが珍しくなっていますが、whoever は普通に口語でも使われます。

◆ whatever の例

① You may eat [whatever you like ●]. 名詞節

≡ You may eat anything (that) you like ●.

「好きなものは何でも食べてよらしい」

② [Whatever he may eat ●], he doesn't put on weight. 副詞節

≡ No matter what he may eat ●, he doesn't put on weight.

「彼は何を食べても太らない」

◆ whichever の例

① Take [whichever you want ●]. 名詞節

「欲しいものはどっちでもいいからとりなさい」

② Whichever you choose ●, you will be satisfied. 副詞節

≡ No matter which you choose, you will be satisfied.

「どちらを選んでも、ご満足いただけます」

3 whoever と whomever の使い分けは？

よく混同しがちなのが、whoever と whomever の使い分けです。うっかりすると勘違いが生ずることがあります。次の英文の () 内に

はどちらが入るでしょうか。

「このドレスを欲しい人になら誰でもいいからあげなさい」

Give this dress to () wants it.

正解は whomever ではなく whoever です。しかし、案外これを whomever としてしまうことが多いようです。おそらく前置詞 to の後ろに続く形になっていることが勘違いの元と思われます。例えば、「それを彼にあげて」という場合、Give it to him. のように代名詞は目的格の him を使います。ここから him → whom → whomever と連想してしまうかのかもしれません。

しかし、whoever を用いるか whomever を用いるかは、実は直前の品詞には関係ありません。どちらを使うかは**後続で欠けているのが主語か目的語かで決まる**のです。この場合は、wants の主語が欠けているので whoever を用います。

▶ Give this dress to [**whoever** ● wants it].

≡ Give this dress to **anyone who** wants it.

《 whoever か whomever かの使い分け 》

後続の形で決める (直前の品詞は関係なし)

4 複合関係副詞：後続は完全文

次に関係副詞に ever がつく用法を扱います。関係副詞に ever がつくわけですから、後続には完全文が来ます。ただし、複合関係副詞として機能するのは wherever / whenever / however の3つです。whyever という複合関係副詞はありません。「理由は何であれ」という表現には for whatever reason という言い方がよく用いられます。

• She won't come, **for whatever reason**.

「理由はどうあれ彼女は来ない」

5 複合関係代名詞と異なる点は？

複合関係代名詞と異なる点は、後続に完全文が来ることだけではありません。名詞節も副詞節もつくれる複合関係代名詞と違って、複合関係副詞節全体は副詞節にしかありません。つまり**名詞節として機能**